

新潟県・栃尾又温泉

自在館

J I Z A I K A N

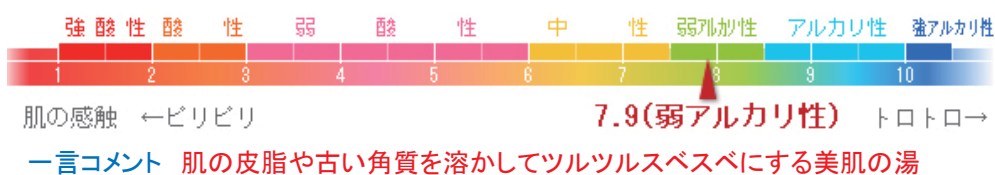
〒946-0087 新潟県魚沼市栃尾又温泉
TEL:025-795-2211

「たぬきの湯 / うさぎの湯」



■ 宿データ (※料金は消費税 8%込)	
1泊2食料金	¥11,900 ~
1泊朝食料金	- 素泊り -
一人泊	¥11,900 ~
連泊	¥7,900 ~
日帰り	¥2,850 ~ 温泉 + 個室休憩 + 昼食
貸切風呂料金	無料 (40分)

■ 水素イオン濃度 (pHペーパー)



■ 温泉成分表：自在館1号・・・「たぬきの湯」「うさぎの湯」で使用

湯の色 無色透明 におい 無臭 味 無味

溶存物質 (ガス性のものを除く成分①+②+③の合計) 226.6mg/kg

泉温 28.5℃ pH値 7.9 (弱アルカリ性)

ラドン (Rn) 131 × 10⁻¹⁰Ci/kg (13.1 ナノキュリー) (35.9 マツヘ)

湧出量 77リットル/分

一人あたりの温泉利用量 (湧出量/収容人数) 約 2.73リットル/人

※共同源泉「栃尾又1号」(毎分101リットル)を合計して計算。収容人数65名。

温泉の成分 (源泉1kg中に含有する分量)

陽イオン	シケラム	シバル	シハル%	陰イオン	シケラム	シバル	シハル%
リチウムイオン(Li ⁺)	0.0	-	-	フッ素イオン(F ⁻)	0.5	0.03	1.15
ナトリウムイオン(Na ⁺)	24.6	1.07	37.95	塩素イオン(Cl ⁻)	10.6	0.30	11.45
カリウムイオン(K ⁺)	0.6	0.02	0.71	臭素イオン(Br ⁻)	0.0	-	-
アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺)	0.6	0.03	1.06	ヨウ素イオン(I ⁻)	0.2	0.00	-
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	0.4	0.03	1.06	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	89.9	1.97	71.37
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	33.4	1.67	59.22	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	25.9	0.42	15.03
ストロンチウムイオン(Sr ²⁺)	0.2	0.00	-	炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	0.0	-	-
計①	59.8	2.82	100	計②	127.1	2.62	100
非溶解成分	シケラム	シバル	溶存物質総計	溶存ガス成分	シケラム	シバル	成分総計
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	39.7	0.51	ガスを除く	遊離二酸化炭素(CO ₂)	0.5	0.01	成分総計
メタホウ酸(HBO ₂)	0.0	-		遊離硫化水素(H ₂ S)	0.0	-	
計③	39.7	0.51	226.6	計	0.5	0.01	227.1

その他微量成分

総ヒ素 0.009mg/kg

宿よりデータを提供して頂きました。

この泉質ならではの浴用の適応症

高尿酸血症 (痛風)、関節リウマチ、強直性脊椎炎など

浴用の適応症

筋肉又は関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進

浴用の禁忌症

病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

飲用の適応症

-

飲用の禁忌症

-

伝承による適応症

不眠症、アトピー、水虫、尿路慢性炎症、糖尿病、卵巣、睾丸機能の向上など

分析日

平成25年08月09日(財団法人 新潟県環境分析センター)

2014年7月1日付け 環境省自然環境局長通達の「温泉法第18条第1項の規定に基づく禁忌症及び入浴及び飲用上の注意の掲示等の基準」、「鉱泉分析法指針」の改定準拠

温泉解説

効能豊かな秘湯「万病の湯」ラジウム泉で現代湯治を体感

泉質名

単純弱放射能温泉

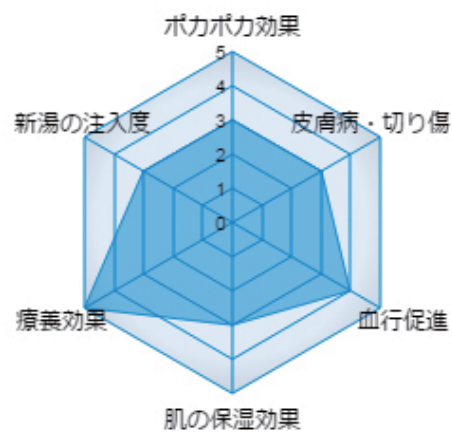
低張性 弱アルカリ性 低温泉 (旧泉質名：放射能泉)

■ 源泉の利用状況

加水	加温	消毒	循環	入浴剤
なし	なし	なし	なし	なし
○	×	○	○	○

※源泉 100%かけ流し

■ 温泉力 チャート (5段階評価)



◆美肌の湯度数 ※最高は4つ星 ★☆☆☆☆

(弱)アルカリ性の温泉 硫黄泉 重曹泉(ナトリウム-炭酸水素塩泉) 石膏泉(カルシウム-硫酸塩泉)

◆こんな人に最適

病院でのがん治療に疑問を持っている人、生理不順、生理痛など婦人病で悩んでいる女性
腰痛、肩こり、頭痛、神経痛など体調不良で悩んでいる人、皮膚の弱い人、ストレスを抱えている人

◆温泉レポート (文・温泉&宿コンシェルジュ 大竹仁一)

「放射能泉(ラジウム泉)」は、ラドンを含む温泉。定義としては、1kg中にラドン(ラジウムから生まれる気体)が3ナノキュリー(30×10⁻¹⁰Ci/kg)以上(8.25マツヘ)含有されている温泉が、「放射能泉」と名乗れるわけだ(Rn181以下は弱放射能泉)。違う表現をすれば、30(百分分の1キュリー単位)(Rn30)以上含有。「自在館」の所有する源泉「自在館1号」のラドン含有量は、131×10⁻¹⁰Ci/kg(13.1ナノキュリー)。35.9マツヘ。実に「療養泉」定義の規定値の4倍以上、「鉱泉」定義であればなんと、6.5倍以上も入っている。一般的には、放射能というと人体に害があると思いがちだが、少量のラドンを体内に吸入すると、血管を通して、全身の細胞に働きかけ、活性化させる作用がある。結果、新陳代謝も良くなり、体内の老廃物などのデトックス作用のほか、免疫力を強化し、自然治癒力を高めるとも言われている。「万病の湯」と称される所以である。これを「ホルミシス効果」と呼び、国内では鳥取の三朝温泉などをはじめ、数か所で研究が進められている。海外では、オーストリアのバドガシュタイン、ドイツのパーデンパーデンなどが有名だ。

「放射能泉」は、入浴の適応症として、高尿酸血症(痛風)、関節リウマチ、強直性脊椎炎などが挙げられる。泉質別適応症に珍しく「痛風」が入っている事もあり、希少価値が高い泉質と言われる。また、pH7.9の弱アルカリ性ということもあり、皮脂や古い角質を溶かして洗い流してツルツルスベスベの美肌効果も期待できる。アトピー性皮膚炎にもいいという専門家もいる。数字的に見れば、間違いなく美肌の湯なのだ。

「たぬきの湯」「うさぎの湯」は、源泉温度が低いため加温をしているが、源泉かけ流し。加温は泉質にほとんど影響しないので、ご安心を。

栃尾又温泉には、昔から伝統的な入浴法がある。それは泉温35℃の温泉に、1~3時間ほどじっくり入る「長湯」(持続湯)という入浴法だ。これは、温泉成分が、じっくり体内に吸収されることが大きい。緊張、興奮を抑える自律神経「副交感神経」に作用し、リラックスした気分になる。さらに、長時間、温泉の水圧にさらされるので、全身に圧力がかかり、内臓も刺激され、マッサージをされるようなものでもある。「長湯」は、同じ時間を歩く以上に、カロリーを消費するので、適度に疲労感を覚え、熟睡にもつながる。

これら「長湯」を体感できるのが、「自在館」を含む栃尾又温泉の宿3軒で共同運営している霊泉「したの湯」「うえの湯」だ。源泉「栃尾又1号」で、泉質名は「単純放射能泉」。

ここでは、温泉水を飲む「飲泉」も体験できる。無味無臭で飲みやすく、飲泉は、利尿効果、鎮静効果が期待できる。ただし、胃の粘膜を刺激する恐れもあるため、できれば空腹時は、飲泉は避けた方がいい。このように、浴用、飲泉、そして吸気により、「放射能泉」の適応症の幅は広い。

最後に、「自在館」の温泉が素晴らしいのは、源泉が地下から水圧で、自力で上がってくる自然湧出泉であること。地下から深く掘り下げて、汲み上げる温泉と違って、じっくりと地下で眠っている間に、マグマや周囲の岩盤などからミネラルなどの成分が溶け込み、さらに地上に上がる途中の地層、岩盤からも有効成分が入ってくる。温泉の中で、最も源泉の熟成度が高く、理想的と言われるものだ。

こういった自然湧出泉は、江戸時代以前の開湯の歴史のある温泉地に多い。温泉の泉質で宿を選ぶなら、この点を留意するのもいいだろう。さらに霊泉「したの湯」の源泉は、湯舟の真下。つまり湯舟の底から、温泉が湧きだしている。温泉は、源泉井戸から湯舟までの距離が短いほどいいとされる。特に「放射能泉」は、温泉成分が劣化しやすい泉質だから、本当に理想的なのである。